



### <来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
5/24 (月)	+ 200	+ 3,900	+ 4,100	国庫短期証券 発行・償還(3M) 国債発行 (20年)	補完供給 CP等買入 + 100 ▲ 300		日: 黒田日銀総裁、挨拶 (2021年国際コンファランス) 米: プレイナードFRB理事、講演 欧: 特別EU首脳会議 (25日まで)
5/25 (火)	トン	▲ 3,000	▲ 3,000	国庫短期証券 発行・償還(6M)	コロナオペ ▲ 37,400		米: FHFA住宅価格指数 (3月) 米: 新築住宅販売件数 (4月) 米: 消費者信頼感指数 (5月)
5/26 (水)	トン	+ 4,000	+ 4,000		共通担保 (全店) ▲ 2,900		日: 鈴木審議委員、講演 (山口県金融経済懇談会) 日: 月例経済報告 (5月)
5/27 (木)	▲ 1,000	▲ 13,000	▲ 14,000				米: 新規失業保険申請件数 (22日終了週) 米: GDP (1Q)
5/28 (金)	▲ 1,000	▲ 1,000	▲ 2,000	国債発行 (40年)			日: 完全失業率 (4月) 日: 東京CPI (5月) 欧: ユーロ圏消費者信頼感指数 (5月) 海外: G7財務相・中央銀行総裁会議

### <インターバンク>

日銀当座預金残高は週初526兆9,900億円から始まった。その後、国庫短期証券買入れオペを主因に528兆8,900億円まで増加したが、20日には国債発行を主因に525兆6,200億円まで減少し、526兆7,000億円を越えた。

無担保コールON物は新積み期の序盤から、地銀業態を中心に調達意欲が強く、堅調な地合となった。なお、同加重平均金利は20日まで△0.016%~△0.015%で推移し、週末となる21日は△0.014%となった。ターム物は1W~2W物を中心に、主に△0.010%~△0.005%の水準で出合が見られた。

来週の主な予定は、国内で26日に鈴木審議委員の講演(山口県金融経済懇談会)や5月の月例経済報告の公表、28日に5月の東京都区部CPIの発表などがある。海外では28日にG7財務相・中央銀行総裁会議がある。

### [無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	△0.070 ~ 0.001
1M	△0.040 ~ 0.030
2M	△0.010 ~ 0.040
3M	0.000 ~ 0.100
6M	0.000 ~ 0.130

### [オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	△0.050 ~ 0.00
CP 3M	△0.060 ~ 0.00

### <レボ>

足許GC取引は、週を通して△0.095%~△0.085%の狭いレンジで取引された。短国3Mの入札日となる21日の取引では、入札結果が市場予想より強かったこともあり、入札後レートが低下し一時△0.10%を下回る水準での出合が見られた。SC取引は2年409~424回債、5年136~147回債、10年331~362回債、20年164~176回債、30年59~70回債、40年9~13回債などに引合が多く見られた。

### <CP>

今週の入札発行総額は約5,900億円で、週間償還額(約3,400億円)を上回った。入札発行市場は、5・10日発行により幅広い業種の発行がみられ、マーケットは活況となった。発行残高は先週末の23兆6,810億円から、20日時点で23兆7,560億円に増加した。発行レートは、投資家の旺盛な運用ニーズに変わりなく、引き続き0%からマイナスでの出合であった。

来週の週間償還額は、月末日の大量償還(約6,000億円)を含み約9,000億円程度となっている。発行市場は、月末スタートの大量発行が見込まれるため、発行増が予想される。発行レートは、投資家の運用ニーズが強く、マイナスから0%近辺の出合が中心と思われるが、日銀オペ等の対象銘柄や希少銘柄では、今週同様強いマイナスレートでの出合を予想する。26日に、CP等買入れオペが4,000億円で実施される予定となっている。

### <TDB>

5月19日の1Y994回債(2022年5月20日償還)の入札は、最高落札利回り△0.1198%(前回債△0.1258%)、平均落札利回り△0.1218%(同△0.1268%)となり、5月21日入札の3M995回債(8月23日償還)の入札は、最高落札利回り△0.1042%(前回債△0.0982%)、平均落札利回り△0.1046%(同△0.0998%)となった。